



展覧会概要

明治時代に太陽暦が採用されるまで我が国は長らく太陰暦に則り、月の満ち欠けはまさに人々の生活のサイクルそのものでした。そのような月を日本人は、四季のうつろいに従う景物として鑑賞の対象としてきました。

本展では、絵画・工芸品 81 件を「第1章 名所の月」「第2章 文学と月 ~ 詩歌・物語・随筆など」「第3章 信仰と月」「第4章 月と組む」「第5章 月の絵師-芳年」「第6章 月の意匠 ~ 武具・工芸品」「第7章 時のあゆみと月」の全7章に構成し、多面的な展示を通じて、日本人に脈々と流れる「月」への嗜好を探ります。

展覧会のみどころ



広報用画像①
甲陽猿橋之図 歌川広重筆
江戸時代(19世紀) 太田記念美術館所蔵
<前期展示>

江戸時代に「日本三奇橋」の一つとして知られた甲府の猿橋を描く。縦長の画面に、橋を見上げ、崖の向こうに遠山や満月を見通す斬新な構図を用いる広重の代表作の一つ。



広報用画像②
月天(十二天像の内) 鎌倉時代(13世紀)
奈良国立博物館所蔵 重要文化財
<前期展示>
画像提供：奈良国立博物館(撮影：森村欣司)

月や月光を神格化した神で、仏教の護法神である十二天のうちの一つ。三日月を戴いた左掌を胸前で構える図像は珍しい。



広報用画像③
萩薄蒔絵硯箱 江戸時代(17世紀)
京都国立博物館所蔵 <全期間展示>

黒漆地に淡い蒔絵を施したうえに、銀板の下弦の月を蓋表の右上隅に配し、月光のもと静かに揺らぐ秋草と水波を平蒔絵で表し、秋の情趣が漂う画面を作り上げている。



広報用画像④ 武蔵野図屏風 六曲一双 江戸時代(18世紀) 東京富士美術館蔵 <全期間展示>
©東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

古来より和歌に詠まれた武蔵野は、「武蔵野は月の入るべき山もなし草より出でて草にこそ入れ」という俗謡ともに屏風絵の主題として流行した。萩、桔梗、菊などの秋草や富士山、月という古来の主題を一双の画面に配している。

会期中のイベント

展覧会関連イベント

●記念講演会「絵画に浮かぶ月」

樋口一貴氏

(十文字学園女子大学人間生活学部文芸文化学科 准教授)

11月3日(木・祝) 午後2時～

*要入館料 *定員 80名 ※事前予約の必要はありません
*直接、地下2階ホールへお越しください

●当館学芸員によるギャラリートーク

10月15日(土)・21日(金)・11月12日(土)

午後2時～

*要入館料 *事前予約の必要はありません

●月の音楽会

日時：10月22日(土) 午後2時～3時

(開場：午後1時30分～

地下2階ホールにお集まりください。)

場所：地下2階ホール

出演者：浄瑠璃：常磐津和英太夫

三味線：常磐津都史

箏曲：奥田雅楽之一

内容：おはなし「月と古典芸能」常磐津和英太夫

浄瑠璃「阿古屋」浄瑠璃：常磐津和英太夫

三味線：常磐津都史

箏曲：奥田雅楽之一

パフォーマンス：「夕月船頭」

スーパーパントマイムシアター

SOUKI 他

*要入館料 *定員 80名 *事前予約の必要はありません。

*参加希望者が多い場合、安全上ご入場をお断りする場合があります。ご了承ください。

*シークレットパフォーマンス開催決定！

同日午後1時～1時30分、3時15分～45分、館内

の「どこか」にパフォーマンスが出現します！

場所や詳細は当日のお楽しみです。是非ご参加ください。

その他の館内イベント

◎館内建築ツアー

10月14日・21日・28日・11月11日・18日

(いずれも金) 午後6時～午後6時30分

10月22日(土) 午後4時～午後4時30分

*要入館料 *各回定員 20名 *事前予約の必要はありません

提携企画

古典の日「狂言入門」

(全席指定：1500円〈税込〉9月4日(日)発売)

日時：11月1日(火)

午後6時30分開演(午後6時開場)

場所：渋谷区文化総合センター大和田・伝承ホール

演目：「月見座頭」善竹十郎ほか

対談：「月を愛でる日本文化」

司会進行：鈴木英一

(伝承ホール寺子屋プロデューサー)

ゲストパネラー：村松 修

(コスモプラネタリウム渋谷解説員)

：平塚泰三(当館学芸員)

*区民先行優待有ります。

(8月7日(日)～9月3日(土))

※「狂言入門」のお問合せ：

渋谷区文化総合センター大和田

ホール事務室 電話：03-3464-3252

関連展覧会の紹介

戸栗コレクション1984・1985-revival-展

10月4日(火)～12月23日(金・祝)

戸栗美術館で開催。

1984年11月～翌年1月まで渋谷区立松濤美術館で開催された戸栗コレクション展の作品を再展示。

次回展のご案内

「セラミックス・ジャパン 陶磁器でたどる日本のモダン」2016年12月13日(火)～2017年1月29日(日)

開催概要

- 展覧会名 「月一夜を彩る清^{きや}けき光」
会期 2016年10月8日(土)～11月20日(日)
前期：10月8日(土)～30日(日) 後期：11月1日(火)～20日(日)
※会期中、一部展示替えがあります。
- 開館時間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
※金曜は午後8時閉館(入館は午後7時30分まで)
- 入館料 一般1000(800)円・大学生800(640)円・高校生500(400)円
小中学生100(80)円・60歳以上500(400)円
※()内は団体10名以上及び渋谷区民の入館料
※土・日曜日、祝休日は小中学生無料
※毎週金曜日は渋谷区民無料
※障がい者及び付添の方各1名は無料
- 休館日 10月11日(火)・17日(月)・24日(月)・31日(月)・11月4日(金)・7日(月)・14日(月)
- 主催 渋谷区立松濤美術館 読売新聞社 美術館連絡協議会
協賛 ライオン 大日本印刷 損保ジャパン日本興亜 日本テレビ放送網
会場 渋谷区立松濤美術館
〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14
電話：03-3465-9421 <http://www.shoto-museum.jp/>
- 交通案内 京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分
JR・東京メトロ・東急電鉄渋谷駅下車徒歩15分



お問い合わせ 渋谷区立松濤美術館 (担当：鈴木・増田 展覧会担当：平塚・増田)
※広報に関するお問い合わせ(広報用画像もご用意しております。)

電話：03-3465-9421 FAX：03-3460-6366 E-mail：info@shoto-museum.jp